

寄書

余が水彩の畫初め

本多金藏

新年となつたが、一日は四方拜二日三日は同窓會で一枚も寫生は出来なかつた。

四日となつて今日こそやつて見様と思つて九時頃出かけた雪はまだ溶けないでごくよい景色だがいくら歩いて場所が見附かない、雪は溶け始まる、氣はあせる、止むを得ず田甫の前にひかえ遠く芙蓉峯を望んで三脚を据へた。

漸く輪廓だけ畫ききると、こそこそ風がふいて来て寒いので、危く鼻の水で畫面を汚しはぐつた、それで畫き上げて見たところが見ん事失敗、最も場所も悪かつた、それから歸りがけに近道をしやうと思つて田の畔に出たところが、雪はもう半ば溶けたので下駄の齒へくつつく、咩だから歩きにくい、手を上げたり足をあげたり與次郎兵衛宜敷といふお姿で歩きだした、後の方で誰か笑つて居たらしい、それもよいか泣き面に蜂下駄の鼻緒をふんぎつた仕方がない、びつこひきひき家に歸つたが、いまい

ましいのでその雪のどつさりついた下駄を寫生した、これも立派な失敗、嗚呼新年早々しかも畫初めに失敗するとは不愉快此上なしだ、しかし失敗は成功の基といふからあながち落膽するには及ぶまいとあきらめた、この先畫くのはどうであるか。

予が淺き意見

中村利一

私は只今小學校に教鞭を執つて居るものですが小學校では水彩畫が教科書になつてありませんので大に閉口して居ります、否寧ろなげかはしいのです。

水彩畫は小學校では教へ得られぬ六ヶ敷いものとしてあるのか又水彩畫は小學校では教へる必要のないものと思はれてあるのか、それとも當局者が水彩畫の味を知らないのか、どちらにしても不合點の至りだ。水彩畫も毛筆畫と同じ繪畫だ、然も同じ程度のもてはないかと思ふ、今の小學校の教科書には始めから毛筆であるが、之も最

初は鉛筆から始めて漸次毛筆又は水彩に進むようにするのが得た策ではあるまいか？水彩畫は小學校で教得へられぬ六ヶ敷いものでも不必要なものでもないと思ふ……予は敢て水彩畫界の諸彦に懇篤なる御批評を仰ぎ度い次第であるのです。

新入會者廣告

長野縣上田町四七一

坂井寛美

出雲國八束郡川津村

久保田甲一

和歌山縣師範學校

保田虎太郎

茨城縣土浦中學校第二假寄宿舎

永瀬義郎

千葉縣木下町

吉岡孝太郎

東京府西多摩郡熊川村

森田浩一

埼玉縣比企郡大河村

小高甚吾

二月 日本水彩畫會